

「バイステックの原則」

－利用者とワーカーとの相互作用から、ワーカーの行動を考察する－

原則の名称と内容	原則の解説	クライアントのニード	援助者の行動
個別化の原則	利用者は、1人の個人として捉えられ、対応して欲しいと望んでいる。	1人の個人として捉えられたい	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の個別性を認識する。 ○利用者の基本的人権及び個人の尊厳を保持し、また他者から侵害されないように監視する。 ○過去の事例を参照にすることはあっても、過去の例に沿った対応を行わない。 ○利用者は「家族の付属物・隷属している存在」とは捉えない。 ○利用者の話(気持ち)をしっかりと把握し、受け止め、対応する。
クライアントを個人として捉える			
意図的な感情表出の原則	利用者は、否定的な感情(恐れ・不安・怒り・憎しみなど)と肯定的な感情を持ち、そのどちらも表現する必要性を持っている。	感情を表現し開放したい	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の「秘められている思い・感情」を、引き出す場面を見極め、引き出す必要があるときに、引き出すことができる面接技術を使い分ける。 ○感情を引き出すことができるだけの信頼関係を構築する。 ○秘密保持の徹底を利用者が実感できるようにかわる。 ○面接場所の環境を整える。 ○支援者は、利用者が表出した感情によって自分の感情・行動を乱してはならない。 ○感情を表出することの必要性を利用者に説明する。
クライアントの感情表現を大切に			
統制された情緒的関与の原則	利用者は、表出した自分自身の感情表現に対して、援助者から共感的な理解と適切な反応を得たいと望んでいる。	共感的な反応を得たい	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションが感情と思考の両面から成り立っていることを援助者がまず理解する。 ○利用者の表出した感情に左右されない。 ○支援者の感受性を高め、利用者の感情と思いをつかむ力を必要としている。 ○常に、専門的援助関係が成立しているのかを吟味し、援助者の「立ち位置」を管理し、適切な位置関係にあるように自分自身の感情をコントロールする。
援助者は自分の感情を自覚して吟味する			
受容の原則	利用者は、他者へ依存しなければならない状態に陥ったり、弱さや欠点をもっていたりしても、1人の価値ある人間として、尊厳を守られ、受け止められたいと望んでいる。	価値ある人間として受け止められたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の状態を、余分な形容詞をつけずに理解する。 ○利用者を、援助者は、援助をすることを目的として、「あるがままの状態＝人間としての全体性、利用者の限界性、利用者の可能性など、利用者の現在の姿」で理解する。 ○利用者の尊厳と価値を尊重し、利用者の全体にかかわる。 ○「受容する」とこと「許容すること」とは別なことで、自分の価値観と相容れないものを許す必要はなく、受け入れること。
「ありのまま」で受け止める			

非審判的態度の原則			
クライアントをワーカーの価値基準に基づいて一方的に非難しない	利用者は、自身が陥っている困難に対して、援助者から一方的に、あるいは一般的な常識に照らして、一方的に非難されたり、叱責されたくないと考えている。	援助者に、一方的に非難されたくない	<ul style="list-style-type: none"> ○社会常識、援助者の価値観で利用者进行评估しない。 ○社会常識や援助者の価値観で利用者进行评估しないということを、利用者に伝え、理解してもらう。 ○利用者の言動は、利用者固有の価値観や判断基準に則って行われたもので、それを非難・否定せずに、その根拠を理解する。
自己決定の原則			
クライアントの自己決定を促して尊重する	利用者は、自分の人生に関する選択と決定を自ら行いたいとする望みを持っている、決定を押し付けられたり、命令されることを望まない	問題解決を、自分で選択し、決定したい	<ul style="list-style-type: none"> ○選択肢を提示し、さらに選択肢のメリット・デメリットを提示して、そのうえで利用者が決定する権利を持っていることを伝える。 ○選択肢の提示、及び選択肢の利用者に対する支援の上でのメリットやデメリットを提示するために、援助者はそれらの情報や判断根拠を持たなければならない。 ○さらには利用者自身が、支援のメリットデメリットを理解できるように支援し、新たな資源に際して自分で判断ができるように支援をして行く。
秘密保持の原則			
秘密を保持して信頼感を醸成する	利用者は、自分に関する内密の情報を、出来る限り秘密のままで守りたいという要求を持っている。自分の問題を、近隣者世間一般の人々に知られたいと考え、自分の評判を捨ててまで、援助を受けようとも思っていない	自分の秘密をきちんと守りたい	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を収集する場面においては、援助者は利用者に対して、予め、誰から・何を目的として・どのような情報を・どのような方法で入手するのかを伝え、利用者の了解を得た範囲・方法で情報を入手する。 ○収集した情報を管理する場面においては、誰と・どのような目的で・どのように情報を共有するか、その際にはその情報の管理をどのように行うことで他者に漏れないようにするのかを伝えるとともに、それが担保され続けていくためにどのような行動を支援者が取っていくのかを伝え、理解を得る。 ○情報の管理が徹底されているかを常に検証して行く。